



生活協同組合コープこうべ



環境を守ること。それはくらしを守ること。

2016 環境報告書

コープこうべエコレポート

Eco Report

地球温暖化防止と再生可能エネルギー

地球温暖化、原発事故後のエネルギー問題に対して、省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及・拡大に取り組みました。

1 CO₂削減と省エネの取り組み

2020年までの長期的なCO₂削減計画

2020年までにCO₂排出量を約35%削減(2005年度対比)する長期計画のもと、取り組みをすすめています。2015年度の時点で、すでに約33%以上の削減を達成しています。

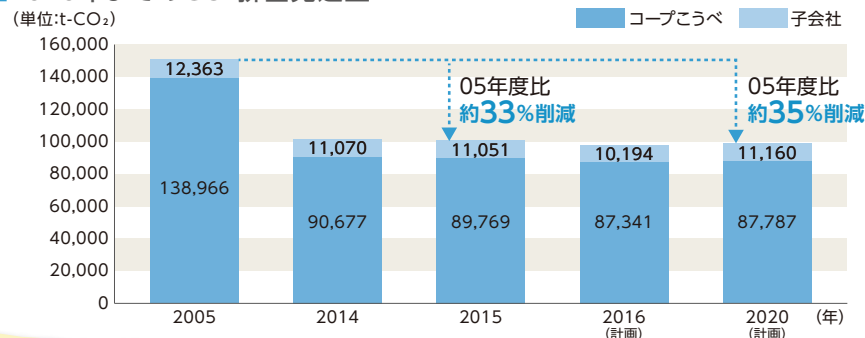
もっともCO₂排出量の多い店舗業態では、冷凍冷蔵ケース・空調機・照明などのうち老朽化したものを順次省エネ対応機種へ入れ替えています。特に、大規模

な改装のあった店舗では、改装前と比較して、3割程度のCO₂削減効果がありました。

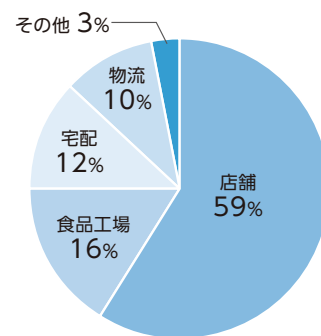
六甲アイランド食品工場では、コージェネレーション設備をはじめとする設備更新・運用改善を継続しています。

宅配では、商品のお届け間違いをなくすことを通じ、走行距離・車両燃料使用量の削減に取り組んでいます。

2020年までのCO₂排出見込量



事業所別のCO₂排出割合



食品工場コージェネレーション設備



改装した店舗(コープ三木緑が丘)



冷蔵ケースの庫外から照らすことにより、効率的に照度を確保

LED照明

2 再生可能エネルギー普及の取り組み

太陽光でつくった電気を コープの店舗の電気として 利用する電力供給事業を開始

再生可能エネルギー(以下再エネ)のさらなる普及を目的に、コープこうべでは、2015年4月から太陽光発電やバイオマス発電の電力(いずれも再エネの電力)を調達し、コープこうべの42施設に電力供給する新たな取り組みを開始しました。

2015年度の再エネ比率(コープこうべが調達した全電力に占める再エネ電力の割合)は37%。これは、日本の再エネ比率12.2%を大きく上回ります。

2016年度に向けて再エネ電力の調達量を拡大し、供給先を88施設にまで拡大するよう準備をすすめました。2016年度の再エネ比率は52%となる見込みです。



組合員向けPRポスター

太陽光発電所を拡大

コープこうべグループでは、再エネの普及を目的に、兵庫県と大阪府に太陽光パネルを設置し、太陽光発電を推進してきました。2016年3月末現在、合計14か所(年間で一般家庭1,747軒分の発電量)の太陽光発電所が稼働しています。

現在、新たな太陽光パネルの設置をすすめており、引き続き太陽光を利用した発電に取り組めます。

エネルギーについての 学習の取り組み

家庭向けの電力小売り自由化によりエネルギーに対する関心が高まる中、エネルギー学習会をコープ委員会などで8件開催。また、鳴尾浜配送センターの太陽光発電施設の見学会も行われました。

2016年3月に電力やエネルギーについて組合員向けアンケートを実施し、1,995件の回答がありました。さらに、4月16日には「どうやって選んだらいいの? 私たちの電気」と題した電力自由化と再エネの学習会を生活文化センターで開催し75名が参加しました。

省エネ学習は、2014年度に引き続き環境省が推奨する「うちエコ診断」を組合員まつりなどイベント会場で行ったり、学習会形式のプチエコ学習会を実施しました。



(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会常任顧問の辰巳菊子さんによる学習講演

TOPICS

2015年9月には、「おおさか環境賞」の準大賞を受賞しました

1978年にスタートしたマイバッグ運動や店頭でのリサイクル活動、廃棄物の削減など、この間の環境の取り組みや、再エネの電力供給事業の先進的な取り組みが評価されたものです。



おおさか環境賞授賞式
(前列右から2人目 矢田部佳子 コープこうべ理事)

メールマガジン「eこと+」^{プラス}発行

コープこうべでは、再エネ普及に向けて、コープらしい電力事業の取り組みを組合員の皆様と意見交換しながら作り上げていきます。

そこで、再エネの情報やコープこうべの取り組み、学習会・イベントなどの最新情報をいち早くお届けするメールマガジン「eこと+」を発行しました。



- メールマガジン登録についてはこちらにアクセスしてください。
- 登録料・購読は無料です。



コープこうべ
鳴尾浜配送センター
屋上の太陽光パネル

TOPICS ノンフロン冷媒の導入

冷凍冷蔵機器や空調機の冷媒に使用されているフロンガスには、オゾン層破壊影響のある「指定フロン」と、温暖化影響がCO₂の数千倍ある「代替フロン」があり、いずれも大気中に漏れいすると多大な環境影響があります。

指定フロンは2020年製造中止が国際条約で決められており、コープこうべでは、計画的に代替フロン使用機器への入れ替えをすすめています。また、フロンガスを使用しないノンフロンの冷凍冷蔵機器をはじめてコープミニ塩屋に導入しました。あわせて、年4回の点検を実施し、フロンガスの漏れいを予防しています。

指定フロン
オゾン層破壊影響あり・温暖化影響大

代替フロン
オゾン層破壊影響なし・温暖化影響大

ノンフロン冷媒(CO₂など)
オゾン層破壊影響なし・温暖化影響小

TOPICS 電気自動車の導入

コープこうべの協同学苑に電気自動車2台を初めて導入しました。走行中のCO₂排出量が低だけでなく、災害時には非常用の電源として使用することも可能です。



施設内で充電



充電コネクタ

資源循環型の暮らし

事業活動から発生する食品廃棄物や暮らしの中から発生する容器や包装材などを、資源として有効に活用することに取り組みました。

1 食品廃棄物の発生抑制の取り組み

堆肥化

環境共生型農園エコファーム

堆肥化施設コープ土づくりセンターと、隣接する(有)みずほ協同農園からなるエコファーム(三木市)では、店舗の野菜・精肉の加工くずを回収・堆肥化し、その堆肥で育てた野菜を再び店舗などで供給しています。

■エコファームのしくみ

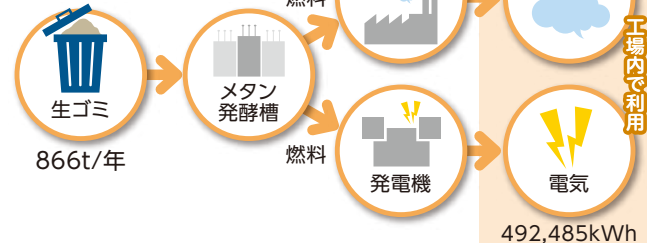


メタン化

六甲アイランド食品工場のバイオマス発電

パンや豆腐などを製造する六甲アイランド食品工場では、おから乾燥設備やメタン発酵を活用し、約99%の食品廃棄物をリサイクルしています。

■バイオマス発電のしくみ



バイオマス発電

TOPICS

発生抑制

■宅配返品商品のフードバンクへの提供

注文間違いなどでやむなく返品となった宅配のお届け商品の一部に関し、NPO法人フードバンク関西(芦屋市)への提供を開始しました。集められた食品は、約100か所の福祉施設に無償で提供され、廃棄物の削減だけでなく、貧困問題の解決にも寄与しています。

また、家庭から発生する食品ロスについて、「フードドライブ」*を職員向けに試験的に実施しました。



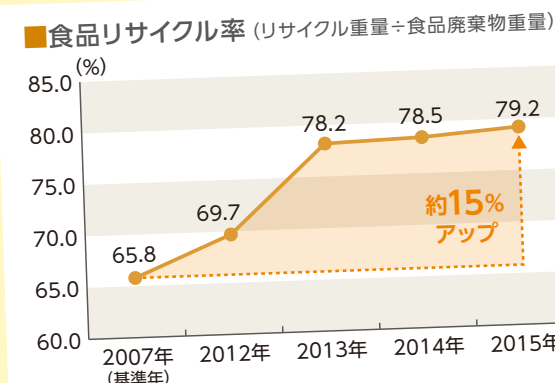
※2日間のフードドライブで集まった食品

※フードドライブ＝家で食べきれない食品を集め、フードバンクなどを通じ福祉施設に提供する取り組み

飼料化

■魚アラリサイクルの拡大

店舗での水産加工時に発生する鮮魚の加工残さを、焼却処分ではなく、専門業者に委託して、養殖魚の飼料にリサイクルする取り組みをすすめています。これまで24店舗で実施していましたが、さらに対象店舗を10か所拡大し、現在は34店舗で分別回収を実施しています。



2 容器包装の削減とリサイクル推進の取り組み

店舗・宅配でのリサイクル品の回収

コープこうべでは、使用する容器をできるだけ減らすとともに、リサイクルのしくみが確立している容器については、店舗や宅配を通じて組合員から回収を行っています。

■2015年度の回収量

紙パック(店舗・宅配)	324,458kg
飲料缶(店舗)	281,140kg
発泡トレイ(店舗)	183,913kg
ペットボトル(店舗)	499,187kg
透明トレイ・卵パック(店舗)	113,275kg
卵パック(宅配)	35,073kg
商品カタログ「めーむ」(宅配)	6,315,724kg
商品配達用ポリ袋(宅配)	87,650kg

TOPICS

■ペットボトルのキャップの回収を開始しました。

2016年2月1日より先行店舗でペットボトルキャップの回収を開始し、4月からは全店舗での回収に広がりました。集めたキャップは、床材や物流用のパレットにリサイクルします。さらに、キャップの袋詰め加工を



子会社の就労支援A型事業所「樹ようあいサポート」で行うことで、障がい者の就労支援につながっています。

■商品配達用ポリ袋のリサイクルのしくみの見直し

回収した商品配達用ポリ袋のプレス作業をコープこうべグループ内で行うことで、トラックの積載効率が上がり、運搬時のCO₂の削減が可能となり、環境負荷の低減につながりました。



商品配達用ポリ袋をプレス機に投入

■使用済み小型家電の回収ボックスを設置しました

使用済み小型家電に含まれる鉄やアルミ、レアメタルなどの貴重な資源の再資源化を目的とした「小型家電リサイクル法」に基づき、各自治体では使用済み小型家電の回収をすすめています。コープこうべでは、神戸市に続き2015年度は西宮市内の3店舗に新たに回収ボックスを設置。回収した使用済み小型家電は、国の認定事業者によって回収・リサイクルされています。



3 マイバッグ運動の取り組み

兵庫県下の店舗の取り組み

兵庫県下の店舗では、レジ袋1枚5円の有料化に取り組んでいます。代金は全額環境の取り組みに活用しています。

- ①コープの森・社家郷山(しゃけごうやま)において、多様な生き物を育む豊かな森づくりのための整備活動と、山とくらしのつながりの体験学習をすすめています。
- ②エコファームや産地での体験学習を通して、食べ物の生産現場、生産する人、それを支える生産環境と、私たちのくらしとの関わりに気づく学習活動をすすめています。
- ③マイバッグ運動の普及啓発に活用しています。
- ④容器包装のリサイクルに必要な費用の一部に充当しています。

大阪府下の店舗の取り組み

大阪府下の店舗では、マイバッグをご持参の方にエコシールをお渡しし、エコシールを20枚集めると100円の割引券として活用できます。さらに環境や福祉活動に寄付することもできます。環境分野では、13の小中学校にリサイクル再生材料でできたエコベンチをお届けしました。また、福祉分野では6か所の福祉関連団体に必要な備品を寄贈しました。



市からの委託事業(ごみ袋の整理)などに使用されるコンテナをお届けしました。(豊能障がい者労働センターさん)

マイバッグ持参率

2015年度実績

87.0%

レジ袋の節約枚数 7,452万枚

TOPICS

■「播磨町におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定」を締結しました

2016年2月に播磨町、播磨町消費者協会と地球温暖化の防止と循環型社会の構築に向け、マイバッグ持参運動を展開し、レジ袋の削減に積極的に取り組む協定を締結しました。これにより協定締結数は18市3町となります。



左から、清水ひろ子播磨町長、大内恵子コープこうべ理事、本谷かをる播磨町消費者協会会長

くらしと環境をつなげて考える

食べものをどのように選び、どんなくらし方をするのかは、環境や生物多様性とも密接に関わっています。一次産業や里山の体験を通じ、こうした学びを広げています。

1 生産と消費をつなぐ取り組み ～とれぴち&とれしゃき～

ライフスタイルや社会環境の変化は、生活者と生産者・生産環境など「食を支える人々・環境」とのさまざまなつながりを切り離してきました。持続可能な食べものの生産が、私たちの豊かな食卓やくらしとも密接に関わっていることがイメージしにくいと、食べものの選択基準も、安全性、価格、おいしさ、利便性といった生活者目線に偏りがちです。

このため、2013年度から、兵庫県漁業協同組合連合会とも連携して「ひょうご地魚推進プロジェクト(とれぴち)」を推進し、地元の魚介類のおいしい食べ方、漁業の現状や漁業者の取り組み、環境とのつながりの学習を行ってきました。

2015年度からは、野菜・米にも学びの領域を広げ、兵庫県がすすめる兵庫県産野菜バリューチェーン構築事業と連携し、全国農業協同組合連合会・兵庫県本部の協力を得て、「兵庫地場野菜振興プロジェクト(とれしゃき)」にも着手しました。両プロジェクトを合わせて店頭ミニ調理講習502回、料理会・学習会104回、産地体験22回を実施し、のべ49,746人が参加しました。

この取り組みの一環で、地元の食材に目を向け、地域の食文化や風土をあらためて見直し、学ぶ観点から、2015年11月に「ひょうごの食文化フェスタ～食から考える一次産業の今とこれから～」をコー

プこうべの協同学苑で開催しました。独立行政法人水産大学校理事長・鷲尾圭司氏による基調講演をはじめ、JF兵庫漁連、JA兵庫中央会、県森林組合連合会の協力を得て県内産品の展示を行い、のべ500人が参加しました。



ひょうごの食文化フェスタの様子

2 里地・里山整備を通じて 食べものやくらし方を考える取り組み

コープの森・社家郷山

兵庫県企業の森づくり制度の第1号として、2008年度からスタートした取り組み。この間、社家郷山での生物多様性の保全、そして循環の学びと活動の基盤づくりをすすめてきましたが、当初予定していた10年間の区切りをひかえ、それ以降も地域を中心に継続的に活動が展開されるよう、西宮市や近隣の学校等との連携強化をすすめています。2015年度は、1,473人が学習や活動に参加しました。

社家郷山の歴史や生息する生きものなど、その魅力を多くの方にお知らせするため、2015年12月には、ハイキング道「四季の道」沿いに学びのパネルを10基設置し、西宮市に寄贈しました。さらに、社家郷山が環境省「生物多様性保全上重要な里地里山(略称:重要里地里山)」(500箇所)※1に選定されたことから、環境省からの来賓も得て、2016年3月7日にパネルの除幕&寄贈式を行いました。



パネルの除幕&寄贈式

注) 環境省は、さまざまな命を育む豊かな里地里山を、次世代に残していくべき自然環境の一つであると位置づけ、全国で500箇所を選定。

みんなの 牧♥里プロジェクト

食べものと生産・環境のつながりを身近な地域で学ぶ素材のひとつとして、大阪北地区エリア内の豊能町牧地区で「みんなの牧♥里プロジェクト」がスタートしました。大阪府アドプトフォレスト制度(企業の森づくり制度の大阪府版)のもと、大

阪府、豊能町、地元の牧農空間活性化協議会と四者で協定を結び、遊休農地の再生と耕作、そして竹林整備を通じた食と環境の体験学習をすすめています。

2015年8月には、コープくらぶ「とよの里山くらぶ」が立ち上がり、体験イベントのサポートや農地や作物の維持管理に取り組んでいます。11月25日にはボランティア25人による休耕田の開墾を行い、12月5日のキックオフイベント(大根・カブ・白菜の収穫)には100人以上の組合員が参加しました。



キックオフイベント

3 コープこうべ 環境基金の取り組み

21団体に総額268万円を助成しました

兵庫県内で自然環境の保護や活用の実践活動や啓発活動、ならびに実証的調査・研究を行う団体の活動資金を助成する公益信託「コープこうべ環境基金」。

2015年度は、生物多様性の保全、希少種・在来種復元、食べものと環境のつながりといった視点が盛り込まれている活動を中心に、21団体に総額268万円を助成しました。また、

6月には宅配と店舗で集中募金を行い、約170万円が集まりました。



助成先
NPO法人 たつの・赤トンボを増やそう会

4 商品利用で産地の環境を 保全する取り組み

コープこうべでは、コープ商品の利用を通じた募金活動により、産地の環境保全に取り組んでいます。

2015年度は、新たにうなぎ資源が危機的な状況の中、鹿児島県ウナギ資源増殖対策協議会では河川整備の研究、すみかとなる石倉カゴの設置など、うなぎが育つための環境づくりに取り組んでいます。コー

プこうべでもこの取り組みに賛同し、コープのうなぎ1パックにつき3円を寄付しました。これまでも、コープ衣料用洗剤セフター・あおぞらの利用で『ボルネオ緑の回廊プロジェクト』やコープスもずくの利用で『沖縄恩納村のサンゴの森づくり』への募金活動にも継続的に取り組んでいます。

募金の
総額

『ボルネオ緑の回廊プロジェクト』 511,996円
『沖縄恩納村のサンゴの森づくり』 291,745円
「鹿児島県ウナギ資源増殖対策協議会」 1,035,027円

TOPICS

第3回 食と農林漁業の食育優良活動表彰 「農林水産大臣賞」(企業部門)を受賞

1924年(大正13年)の家庭会の創設以来、90年にわたり組合員発ですすめてきた食生活ニーズに対応した食育活動や学習、とれぴちなど消費と産地をつなげた食育活動、そして環境共生型農園エコファームでの資源循環の学習などの取り組みが認められたものです。2015年9月に東京で表彰式が行われ、活動の概要についてプレゼンテーションを行いました。



中川郁子農林水産大臣政務官(左)から
記念の盾を授与される本田英一組合長理事

コープこうべのあゆみ

年度	主な取り組み
1978	●買い物袋再利用運動を開始 ●食品容器包装フィルムを塩ビからポリエチレンに変更
1981	●有リン洗剤の取り扱いを中止 ●せっけんキャンペーンを開始
1990	●コープの環境月間スタート ●環境統一マーク商品の供給を開始 ●牛乳パックリサイクルが本格的にスタート
1991	●買い物袋再利用運動から「買い物袋持参運動」に ●フードプラン第1号商品開発 ●飲料缶、トレイ、ペットボトルのリサイクル開始
1992	●公益信託「コープ環境基金」を設立
1995	●買い物袋持参運動を拡大して「マイバッグ運動」に
1996	●総代会特別決議として「環境憲章」を採択
1998	●コープ武庫之荘ISO14001取得 ●コープ土づくりセンター完成 ●(有)みずほ協同農園発足
1999	●エコファーム施設の完成 ●食品工場ISO14001取得
2000	●全事業活動でISO14001取得
2001	●第一次環境中期計画策定 ●エコファームを本格オープン
2003	●食品工場の廃棄物処理設備完成
2004	●第二次環境中期計画策定
2005	●ISO14001の環境マネジメントシステムを食品工場と統合 ●フードプラン管理規定の策定 ●食品工場のバイオマス利活用の取り組みが、兵庫県「ひょうごバイオマスecoモデル」第1号に認定
2007	●第三次環境中期計画策定 ●「マイバッグ運動」のステップアップ ～レジ袋のレジ精算、食品を扱う150店舗で実施 ●容器包装3R推進環境大臣大賞最優秀賞受賞
2008	●兵庫県、西宮市と企業の森づくり協定締結 ●「コープの森・社家郷山」の取り組み開始
2010	●店舗で卵パック、透明トレイの回収開始スタート ●地産地消の取り組み強化「ひょうご発」商品開発
2011	●コープこうべ環境基金20周年のつどい開催
2012	●夏の電力不足に対応し「夏の節電対策手順書」を作成。 15%以上の省エネ、CO ₂ 削減を実施 ●国際協同組合年記念事業「食と環境のシンポジウム」 「虹の仲間と森づくり」開催 ●住吉事務所が関西エコオフィス大賞 「節電の励行部門賞」を受賞
2013	●鳴尾浜配送センターで太陽光発電を開始 ●アルミ付紙パックの回収開始
2014	●子会社の(株)ゆうあいサポートで店頭回収の ペットボトルのプレス作業開始 ●ISO14001の認証を返上し、自主運用に切り替え ●子会社の(株)コープ環境サービスで、 宅配の商品情報紙「めーむ」の圧縮作業を開始
2015	●再生可能エネルギーを利用する電力供給事業を開始 (コープこうべの42事業所に電力供給) ●「おおさか環境賞」の準大賞を受賞 ●「播磨町におけるレジ袋削減に向けた取り組みに 関する協定」を締結 ●ペットボトルのキャップの回収開始 ●第3回 食と農林漁業の食育優良活動表彰 「農林水産大臣賞(企業部門)」を受賞 ●コープの森・社家郷山が環境省「生物多様性保全上 重要な里地里山」(500箇所)に選定 ●宅配返品商品のフードバンク関西への提供開始 ●みんなの牧♥里プロジェクトの取り組み開始
2016	●再生可能エネルギーを利用する電力供給事業所を 拡大(コープこうべの88事業所に電気供給) ●子会社の(株)コープ環境サービスで、宅配の 商品配達用ポリ袋の圧縮作業を開始



生活協同組合コープこうべ
組合長理事

本田 英一

組合長理事あいさつ

コープこうべでは、組合員の皆さんとともに環境問題に長年取り組んでまいりました。取り組むテーマは時代時代で変化してきましたが、最近では地球温暖化に伴う異常気象、原発事故後のエネルギー問題、そして食や生物多様性の問題など次世代の暮らしを脅かす事象が顕在化してきています。組合員とともに持続可能な社会を目指す生協として、次世代につながる取り組みを進めていく必要があります。

本誌では、このような思いで2015年度に取り組んだ再生可能エネルギーの拡大や新たな電力事業の取り組み、リサイクルの新たな取り組みについて概要をご報告しています。

組合員の皆さんと現在の到達点を共有し、様々なご意見やご提案もいただきながら、未来づくりを組合員の力で進めていきたいと考えています。ぜひ、お力をお貸しいただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

2016年7月

コープこうべ概要 (2016年3月31日現在)

名 称	生活協同組合コープこうべ
設 立	1921年(大正10年)
所 在 地	〒658-8555 神戸市東灘区住吉本町1丁目3番19号
出 資 金	377.6億円
組合員数	1,683,882人
組 織 率	50.4% ※活動エリア内世帯に占める組合員世帯の割合
活動エリア	兵庫県全域・京都府京丹後市・ 大阪府豊中市、箕面市、池田市、吹田市、茨木市、 高槻市、摂津市、能勢町、島本町、大阪市淀川3区
主な事業	組合員世帯を対象に、 商品の生産・供給事業および教育・学習を行い、 生活文化の向上を図る事業など
供 給 高	2,401.0億円
生産事業高	87.0億円
総職員数	9,434人
事 業 所	住吉事務所/1か所 地区活動本部/7か所 店舗事業/162店舗 宅配事業/25事業所 食品工場/1か所 物流センター/7センター その他/38事業所

コープこうべ環境憲章

有史以来、私たちは自然界の恩恵を受け、自然との共生を図りながら生きてきました。しかしながら、今や私たち人間が環境に与える影響は極度に増大し、地球環境を大きく破壊しつつあります。これは人類の生存をも脅かす重大な問題です。

この地球は私たちが祖先から受け継いだものであると同時に、子孫から託されているかけがえのないものです。地球環境を守るためには、私たち一人ひとりが生活スタイルを見直すとともに、事業のあり方を変革し、行政・企業・消費者が力を合わせて環境保全型社会への転換を図っていくしかありません。

コープこうべは、暮らしを守るという生活協同組合の目的にそって、環境問題解決のために全力をつくすことを誓い、「コープこうべ環境憲章」を以下のとおり定めます。

基本理念

地球環境はすべての面で有限であり、私たち人間は其中で活動せざるをえません。コープこうべの組合員・職員の一人ひとりはそのことを認識し、限られた地球環境の中で自然と共生していくという思いを大切に持ち続けていきます。

創立以来、コープこうべは組合員の暮らしを守るための運動を展開してきました。今後さらに、環境問題を“暮らしのあり方、社会システムのあり方を問う意識変革の問題”と認識し、“健康・福祉・平和”を守る運動とともに、生協運動の根源的課題として、事業活動も含めて先進的な取り組みを積極的に展開していきます。

行動指針

生協は、消費者運動としての側面と同時に事業体としての側面をもっており、その両面で環境保全への取り組みを推進していきます。

コープこうべは以下の方針を基本として、組合員と職員が一緒になって考え、悩み、創造し、行動するとともに、環境保全活動や環境負荷に関する情報を公開していきます。

1. **くらしの見直し運動をすすめ、環境保全型社会への転換を推進します。**

2. **事業活動から発生する直接・間接の環境負荷の低減を推進します。**

- ① 環境に配慮した事業体への転換を図ります。
- ② 環境に配慮した商品の開発・改善を図ります。

1996年5月31日 生活協同組合コープこうべ 第76期通常総代会

コープこうべの環境への取り組みはホームページで詳しくご紹介しています

<http://eco.coop-kobe.net/>

コープこうべの環境活動

検索

データ集 <http://www.kobe.coop.or.jp/ecoreport/index.html>



「生活協同組合コープこうべ 2016環境報告書」

編集・発行/生活協同組合コープこうべ 企画政策部 環境推進

TEL: 078-856-2068 FAX: 078-856-1700

<http://www.kobe.coop.or.jp/>

2016年7月発行